

沖縄周辺重要水産資源調査（要約）

（シロクラベラの資源生態調査）

金城 清昭*・本永 文彦*・海老沢 明彦**

1. 目的および内容

本調査は昭和50年度から水産研究所の委託調査として始まり、沖縄県周辺海域の重要水産資源の資源生態や資源構造を明かにすることにより、資源の現状を把握して合理的生産体系の確立をはかることを目的としている。

昭和61年度以降は矛突き漁業の対象種の資源管理を目的に、その最重要種であるシロクラベラについて、生物情報の収集、漁獲量、漁場などを調査し、年齢・成長・成熟・資源の年齢構造などの資源管理に必要なデータの収集を行ってきたが、本種に関する調査は平成2年度をもって終了した。

シロクラベラの漁獲実態については、昭和63年度沖縄県水産試験場事業報告書ですでに報告した。産卵期、性成熟過程および性転換については、平成2年度南西海区ブロック外海資源・海洋研究会（平成2年9月：高知市）で口頭で発表した。現在、別途報告すべく取りまとめ中である。また、成長および年齢等については現在資料を解析中であり、後日別途報告の予定である。

調査にあたり、勝連漁協と名護漁協の職員の方々には魚の購入と市場調査に便宜をはかって頂いた。記して感謝する。

結果については、別途とりまとめて報告するので、ここでは方法についてのみ述べる。

2. 方法

調査は、魚体精密測定調査と市場調査の2項目からなる。

魚体精密測定調査は、定期的に魚を購入して、体長・体重・生殖腺重量を測定し、性別・消化管内容物を調べた。また、年齢査定のために耳石・鱗・後翼状骨を採取した。さらに生殖腺の組織学的研究の必要性から生殖腺はブアン氏液で固定したのち所定の処理を施し、後日の観察のために保存した。

市場調査は、沖縄島中部東岸の勝連漁協と北部の名護漁協のセリ市場で行った。調査頻度は、勝連漁協で月数回、名護漁協では7～9回/月であった。調査は、調査日に水揚げされたすべてのシロクラベラについて、漁場別・漁法別に全長を測定する方法で行った。

*漁業室 **八重山支場